令和７年度　第１回地域医療推進部会議事録

１．日　　時　　令和７年１０月２２日（水）　第１回帯広市健康生活支援審議会終了後
　　１９：４５～２０：２０

２．場　　所　　帯広市役所　１０階　第２会議室

３．出席委員　　稲葉　秀一 部会長、増井　信也 委員、中村　貴徳 委員、池添　博彦 委員、
　　住谷　晋 専門委員、岡山　有美子 専門委員、小岩　幹 専門委員、
　　結城　和美 専門委員

４．会議次第
（１）前回会議の議事録（案）の確認
（２）令和６年度　健康推進課決算について
（３）令和６年度　保健事業について
（４）令和６年度　休日夜間急病センター実績について
（５）その他

５．会議内容
〇事務局
こんばんは。ただ今から、令和７年度第１回地域医療推進部会を開会いたします。
本日の委員の出席は、地域医療推進部会、委員９名中８名のご出席をいただいており、出席人数が委員の過半数を超えていますことから、本日の部会は成立しております。
ここで、お手元の資料の訂正があります。資料２について一部表記に誤りがあったため、机上に配付させていただいておりますので、事前に送付させていただいたものと差し替えをお願いします。
これより議事進行は、部会長にお願いいたします。

◎部会長
それでは、会議に入らせていただきます。まず初めに「（１）前回会議の議事録（案）の確認」を議題といたします。この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。議事録につきまして、ご質問やご意見があればお願いします。

◎委員
議事録中４ページ中段の以下の記載について訂正をお願いしたい。
・訂正前：「糖尿病対策としては、もっと若いうちからが望ましいとは思っており」
・訂正後：「糖尿病対策は、後期高齢者が対象者となっているが、前期高齢者の時から取り組んだ方が望ましいと思っており」

◎部会長
訂正についてよろしいでしょうか。また、ほかに意見はありますでしょうか。

【意見なし】

◎部会長
ほかになければ、委員から指摘のあった箇所を訂正し、それ以外については議事録は了承されたものといたします。

◎部会長
次に、「（２）令和６年度健康推進課決算について」を議題といたします。事務局から、説明願います。

〇事務局
令和６年度健康推進課関係決算の概要について、説明させていただきます。お手元にある「資料１」をご覧ください。総事業費は 13 億 5,318 万 8,129 円でございます。内訳ですが、まず資料左側「保健衛生総務費」は決算額４億 1,475 万 18 円となっております。主な事業といたしましては、「保健衛生推進費」として、健康まつりの負担金、難病連十勝支部の事業への補助、健康づくりガイド作成、ＡＥＤ賃貸借、心身障害者歯科治療費補助などのほか、「食・運動改善推進費」として、食生活改善推進員と健康づくり推進員の養成及び育成、各種教室の開催等、また、「公衆浴場対策費」として、市内の公衆浴場の確保のための各種事業への補助、ふれあい銭湯事業補助等を実施いたしました。
次に「訪問看護促進費」として、北海道総合在宅医療ケア事業団の会費、「健康増進センター管理費」として、大正と川西の健康増進センターの運営管理、「看護師等養成機関確保対策費」として、十勝管内19市町村で運営している高等看護学院の運営費分担金、市内に２箇所ある看護師養成機関に対する補助、「帯広厚生病院運営費補助事業費」として、管内 19 市町村による帯広厚生病院の運営支援を実施しました。
なお、妊婦・乳幼児健康診査費、母子保健相談指導費、心の発達支援事業費、食育推進事業費については、従前より児童育成部会で説明していることから、当部会においては、決算額のみお示しすることとさせていただきます。
次に、資料中央の「予防費」につきましては、決算額６億 2,669 万 3,453 円となっております。主な事業といたしまして、「がん検診・健康診査費」として、各種がん検診、肝炎ウイルス検診、市民健康診査、骨粗しょう検診等に要する経費など、「予防接種費」として、各種定期の予防接種費用、「感染症予防費」として、65 歳以上の高齢者等及び中学３年生、高校３年生に対する季節性インフルエンザ予防接種、65 歳以上の高齢者等に対する成人用肺炎球菌及び新型コロナウイルス予防接種、エキノコックス症検診を実施しております。
また、「結核予防費」として、結核検診、「健康相談費」として、保健師や栄養士などによる相談、「健康教育費」として、各種健康講座、スマートライフプロジェクトの推進、そして健康マイレージ事業を行っています。
また、「自殺対策事業」として、生きるを支える連携会議の開催や、多分野合同研修会の実施、「訪問保健指導費」として、保健師の個別訪問による保健指導、「保健・介護一体的実施推進事業費」として、後期高齢者を対象とした保健指導や健康講座などを実施しました。
次に、「夜間急病診療費」は、決算額２億 4,582 万 6,871 円でございます。主な事業といたしましては、まず「休日夜間急病センター管理運営費」として、指定管理による休日夜間急病センターの管理運営を行っているほか、「救急医療対策費」として、在宅当番、二次救急医療、休日歯科診療業務、急病テレホン

センターなどの運営の委託、小児救急医療の補助を行なったものです。
　最後に、保健福祉センターの管理運営に要する「保健福祉センター費」は、決算額6,591万7,787円となっております。
　なお、この資料の数字横の矢印表記につきましては、前年度決算対比での増減を表しており、増減10%以上のうち主要なものにつきまして、これから説明をさせていただきます。
　まず、「予防接種費」につきましては、20.6%の増となっております。こちらは、前年度と比較し、ＨＰＶワクチンの接種件数が増加したこと等によるものです。
　次に、「感染症予防費」については、70.4%の減となっております。こちらは、前年度と比較し、新型コロナウイルスワクチンの接種件数が減少したこと等によるものです。
　次に、「休日夜間急病センター管理運営費」については、51.9%の増となっております。こちらは、指定管理者の利用料収入が減少したことに伴い、市からの支援金補填額が増加したものです。
　次に、「救急医療対策費」については、39.0%の増となっております。こちらは、令和６年度より各町村も患者数の割合に応じて費用を負担し、十勝全体で支援を行うこととなったことから、二次救急当番病院への委託料が増加したものです。
　次に、同じく資料右側の「保健福祉センター管理費」については、144.3%の増となっております。こちらは、保健福祉センターの温水ボイラー改修工事により、工事請負費が増加したものです。
　以上、令和６年度決算の概要でございます。

◎部会長
　ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

◎委員
　数字など中身ではないが、高齢者の糖尿病対策は保健・介護一体的実施推進事業費の中に含まれると思うが、以前山梨大学のプレスリリースで、糖尿病の方々のピックアップのために歯科受診者の血糖を計って早期発見する取組み事例を見たことがある。そのような取組みは帯広市では行っているか。ワンストップで合理的にピックアップできると思うため、情報共有の意味も含めて確認させていただいた。

〇事務局
　今のところ実施していない。参考にさせていただく。

◎部会長
　ほかになければ、質疑を終了いたします。

◎部会長
　次に、「（３）令和６年度保健事業について」を議題といたします。事務局から、説明願います。

〇事務局
　令和６年度保健事業について、説明させていただきます。お手元の「資料２」の１ページ目「１.保健福祉センターの利用状況」をご覧ください。
　（１）事業等の利用状況でありますが、表の一番下に記載しています合計数の利用者の推移につきまして、令和６年度の利用件数は1,515件で前年比約0.5%の減、利用者数は28,046人で2.2%の減と、ほぼ

横ばいの状況です。

（２）各種相談の利用状況では、相談内容により増減はありますが、全体的な件数は増加傾向にあります。中でも「ことばの教室」に係る相談件数の割合が高く、令和６年度の利用人数は 4,211 人で令和５年度より 281 人の増となっております。

次に、「２.感染症などの予防」をご覧ください。

（１）予防接種の実施状況は、ご覧のとおりとなっております。各予防接種の接種率については、後ほど「資料２－１」でご説明させていただきます。

（２）結核検診の実施状況につきまして、15～39 歳が結核検診、40 歳以上の肺がん検診のＸ線検査の受診者数の計となっておりますが、令和６年度は 5,148 人で令和 5 年度に比べると 31 人の減となっています。

（３）成人用肺炎球菌予防接種は、平成 26 年 10 月から定期接種化され、令和５年度までは経過措置により、65 歳以上で５歳刻みの年齢の高齢者を対象に実施しておりましたが、令和６年度からは 65 歳の高齢者等が対象となりました。令和６年度の接種率につきましては、後ほどご説明させていただきます。

（４）インフルエンザ予防接種は、中３、高３と 65 歳以上の高齢者等に対しての接種事業を実施し、実績は表に記載のとおりとなっております。こちらも、接種率につきましては、後ほどご説明させていただきます。

（５）新型コロナワクチンの予防接種については、令和５年度末で特例臨時接種が終了し、令和６年度からは定期接種となり、インフルエンザと同様に 65 歳以上の高齢者等を対象に接種事業を実施しました。

（６）エキノコックス症検診については、令和６年度の受診者数は 92 人で前年比 23 人の減となっております。令和４年度から令和５年度に大きく増加しておりますが、例年受診者の多い健康まつりが、令和４年度は中止になりましたが、令和５年度以降は開催されたことにより増えたものです。

では、予防接種の接種率につきまして、「資料２－１」をご覧ください。

まず、子どもの定期接種につきまして、令和６年４月から五種混合が定期接種となり、四種混合とヒブから切り替わっております。傾向として、生後の早い時期に接種を開始する、ＢＣＧ、四種混合、五種混合、ヒブ、小児用肺炎球菌、Ｂ型肝炎、ロタについては、安定して高い接種率を維持しております。

麻しん風しんワクチンは、年長児が対象となっている２期の接種率について 95%を目標としており、年に２回、個別に勧奨通知を送付していますが、令和６年度の接種者率は 92.7%となり目標を達成しませんでした。

ＨＰＶワクチンについては、キャッチアップ接種の期限が令和６年度末までに１回以上接種する必要があったことから、令和６年度の接種者数は前年度と比べて大幅に増加しております。

なお、一部の予防接種の接種率について、対象者数を延べ接種者数で割っても一致しないものがありますので補足説明いたします。

ＨＰＶは標準接種年齢である 13 歳の１回目接種件数割る対象者で算出しており、水痘及びロタウイルスにつきましては、１回目接種件数割る対象者で算出しております。

中段のＢ類予防接種につきまして、高齢者の肺炎球菌は、令和５年度までは特例措置により、65 歳以上の５歳刻みの年齢で、過去に１度も肺炎球菌ワクチンを接種したことのない方が定期接種の対象となっておりましたが、令和６年度からは 65 歳の高齢者等が対象となりました。令和６年度の接種件数は 352 件で、経過措置の終了に伴い、前年度と比較して接種件数は減少しております。

高齢者のインフルエンザにつきましては、近年は対象者数の半数以上が接種しておりましたが、令和６年度は半数を下回り、接種者数が減少しております。

高齢者の新型コロナウイルスにつきましては、令和６年度から 65 歳以上の高齢者等を対象とした定期

接種が開始となり、接種率は 11%となっております。
　下段の任意接種につきましては、受験生を対象としたインフルエンザワクチン接種費用の助成を行っているものですが、こちらも年度により多少の増減はあるものの、概ね同程度の接種率で推移しております。資料２－１の説明は、以上でございます。
　「資料２」２ページ目中段の「３. 生活習慣病の予防」から説明を再開いたします。
　（１）健康教育の実施状況について、実施回数、参加人数ともに前年度とほぼ横ばいの状況で、新型コロナウイルスの感染拡大前の数に復調傾向がみられます。
　（２）健康づくり講座・教室等については、歩数計機能付きスマートフォンアプリを活用している「健康マイレージ」事業は、令和７年３月末時点で 5,478 名が参加しています。
　（３）健康相談については、新型コロナウイルス感染症などの感染症に関する健康相談が減少したことにより、令和５年度より健康相談件数は減少になっています。
　（５）検診の実施状況でありますが、受診者数はご覧のとおりとなっております。受診率の詳細につきましては、「資料２－２」に記載しておりますが、前年度と比べると、胃がん検診を除き、受診率が上昇しております。
　（６）検診・検査の実施状況健診事後指導については、令和６年度は 514 件であり、前年比 10 件の減となっております。
　次に、「４. 自殺対策」につきましては、関係機関や市職員等を対象に、「生きるを支える相談支援」、「若者の“生きる”を支える」をテーマに、多分野合同研修会を開催いたしました。その他に、ゲートキーパー養成講座やＳＯＳの出し方教室を実施しました。ＳＯＳの出し方教室については、初めて小学校での実施に繋がりました。
　最後に、「５. 救急医療体制」に関する実施状況でありますが、帯広市では、夜間・休日等における医療不安の解消と急病患者に対処するため、休日夜間急病センター運営事業や、医療機関の協力をいただき、在宅当番医制や二次救急医療体制を確立しております。利用状況等につきましては、ご覧のとおりです。休日夜間急病センターの実績につきましては、議事の（４）で説明させていただきます。
　令和６年度の保健事業につきましては以上でございます。

◎部会長
　ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

◎委員
　新型コロナワクチンの予防接種の状況について、令和６年度は（令和５年度に比べ接種者数が）１桁低くなっている。副作用がひどいという噂も聞いたことがあるがそういった理由か。

◎部会長
　令和５年度までは対象者が生後６ヶ月以上の方（約 16 万人）だったが、令和６年度は 65 歳以上（約 5 万人）のみとなるため対象となる人数が全然違っている。

〇事務局
　部会長からもお話があったように、対象者の範囲が変わったため、接種者数が全体的に減少している。また、対象者が約３分の１になっているのと、接種開始当初はほとんどの方が接種していたが、自己免疫を含め感染しないための対応を取ることで接種が段々少なくなっていると考える。

◎委員
　令和６年度から新型コロナワクチンの接種者数が減っているのは、接種が義務から任意に変わったからか？また、自己負担が掛かるようになったからか？

〇事務局
　元々接種は義務ではなく任意であった。また、令和５年度までは無料で接種できていたが、令和６年度からは自己負担が掛かるようになったことも接種者数が減少した要因として考えられる。
（自己負担額：令和６年度…3,300 円、令和７年度…4,600 円）

◎委員
　ＨＰＶワクチンの接種率が上がってきていない。確か中学１年生と高校１年生に個別勧奨していると思うが、（同時期に接種する）二種混合は小学６年生に勧奨し接種率が 75.7%である。中学生よりも小学生の時の方が接種に来やすいと思うので、ＨＰＶワクチンも二種混合と一緒に勧奨しては（従来の勧奨も継続）。早く接種を開始すれば２回で済む。全国的に接種率が上がっていない状況だが、少しでも上げる方策が必要では。

〇事務局
　委員のお話のとおり接種率が低い状況が続いているので、少しでも接種率を上げるために、今いただいた方法などを考えながら実施していきたい。

◎部会長
　ＨＰＶワクチンが任意接種の時に、産婦人科の先生方は小学６年生・小学校高学年に接種してはという意見が主体だったと思うので、積極的に広報してもいいのでは。

◎部会長
　後はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
　なければ、この議題については終わらせていただきます。
　次に、「（４）令和６年度休日夜間急病センター実績について」、事務局から説明願います。

〇事務局
　令和６年度休日夜間急病センター実績について、説明させていただきます。お手元に配付の「資料３」をご覧ください。
　休日夜間急病センターは、平成 26 年度に新築移転し、休日と夜間の初期救急を指定管理により運営しています。令和６年度の患者数の実績につきましては、夜間は、年間合計で 4,113 人と、前年度の約 95%、下段の休日は、6,993 人で、前年度の約 87%となっております。
　患者数が前年度より減少した要因としましては、新型コロナウイルス感染症流行後の受診控えが続いていること、令和５年度に比べ、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの感染者が少なかったことが影響しているものと考えております。
　休日夜間急病センターの運営にあたっては、「運営専門会議」を設置しており、継続的に検討協議を行っております。

説明は、以上でございます。

◎部会長
ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

【質疑なし】

◎部会長
なければ、この議題については終わらせていただきます。
次に、その他について、委員の皆様から何かありますか。

【質疑なし】

◎部会長
ないようですので、事務局の方からお願いします。

〇事務局
次回の地域医療推進部会の日程につきましては、例年２月に予算等をご説明するため審議会の日程と併せて設定させていただいているところであり、具体的には稲葉部会長と調整のうえ、委員の皆様にご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

◎部会長
以上で予定されている議事は終了いたしました。本日は、これで閉会といたします。
お疲れ様でした。